



誰もがなりうる

## 認知症と向き合う

「最期まで自分らしくいたい」。その願いをばばも原因の一つとなる認知症。いつ、誰にでも起こりうる症状だからこそ、正しく理解して受け止める必要があります。

### 認知症とは

認知症は、さまざまな原因で脳の働きが悪くなり、記憶や判断力などが低下する「脳の病気」です。認知症になると、自分の行動を忘れてしまったり、物忘れの自覚がなくなったりするなど、日常生活に支障が出ます。3年後には、65歳以上の5人に1人が認知症になるといわれています。

認知症に気付かなかつたり、放置したりすると、症状は悪化し、家族などに迷惑を掛けることもあります。しかし、認知症は早期に治療をすれば、症状を抑えられることもある病気です。誰でもなりうる病気だからこそ、日常の気付きと早期の対応が大切です。

### 外来のススメ

「認知機能の低下は自覚がないことが多く、家族でも注意してい

ないと気付きにくい。気になる症状があったら早めに受診してほしい」と語るのは、脳神経内科の櫻澤誠医師です。

受診するタイミングは主に2つ。自分や家族が心配になり受診するときと、運転免許証の更新時です。その多くは性別に関係なく、70〜80代の高齢者ですが、若年層でも起こりうるため、日々の生活の中での変化を見逃さないことが必要です。

市民病院では認知症の診療の際に診察、頭部MRIと脳血流検査による画像検査、血液検査を行い、総合的に診断しています。

### 早期治療のススメ

認知症には根本的な治療が難しいものと、治療可能なものがあります。アルツハイマー型認知症のように脳の変性によるものの治療は難しいですが、ビタミン欠乏や



ホルモン異常、慢性硬膜下血腫などが原因で起こる症状であれば、薬や手術によって治せる可能性があります。「治療可能な認知症を見逃さずに早期に治療したい」と語る櫻澤医師。脳神経内科では物忘れだけでなく、怒りっぽくなった、妄想が出てきたりした場合などには、精神科と連携し、症状に合わせた対応をしています。

### 気になったら相談を

認知症は意識していないと気が付きにくく、家族も気付かないうちに進行してしまうことがよくあります。それでも、正しい知識と対処法を理解すれば、本人も支える人も不安を抱えず、安心して生活できます。「年だからこんなもの」と思わず、ささいなこと家族や医師に相談し、早期発見と治療を始めましょう。

「認知症の症状は多岐に渡り、薬の治療だけでは難しいこともある。本人や支えてくれる家族の暮らしに合う治療ができるよう、一緒に考えていきたい」と櫻澤医師。「日常生活での悩みは人それぞれ。市民病院の認知症看護認定看護師に相談したり、デイサービスやヘルパーに頼んだりするなど、事情に合わせて対処法を考えることが

認知症外来を希望する方は、内科外来(☎56・3171)へご連絡ください。